

# 子ども・若者の政治参加と地域づくり

---

気候ネットワーク・ウェビナー  
「脱炭素地域づくりを支える人材」

2025年3月19日(水)

龍谷大学政策学部 石倉研

# 簡単な自己紹介



- 石倉 研(いしくら けん)
- 経歴
  - 2010年～2012年:一橋大学大学院経済学研究科修士課程
  - 2012年～2018年:同博士後期課程
  - 2019年～:龍谷大学政策学部
- 専門:環境経済学、地域経済学
- 研究内容
  - 環境と地域の持続可能性を担保するための制度・政策研究
  - 具体的には、再生可能エネルギー導入による地域再生、オーストリアにおける農業・農山村を支える制度・政策、敦賀のおぼろ昆布加工技術に関する研究など

# 本日の内容

- 若者の気候変動問題をはじめとした社会問題への関心や関わりを高めていくための取り組みとして、ドイツ、オーストリアにおける自治体の政策形成や地域プロジェクトに関わることを支える制度・政策の特徴、および若者参加の成果や課題について紹介
  - ドイツ・ゲルリンゲン市の青少年議会
  - オーストリア・モンタフォンのユースフォーラム
  - オーストリア・フォアアールベルク州のビュルガーラート
- 自分自身は、龍谷大学でPBL科目を担当
  - 「地域のために何かしたい」「地域を盛り上げたい」という学生の増加
  - 関心はあっても、受講ハードルを高く感じる学生もいる
  - 単位が出るから受講？他方で、卒業後も関わり続ける学生も
  - 親密圏では頑張るが、政治へのつながりの意識は希薄

脱炭素地域づくりを  
支える人材  
—日欧の実践から学ぶ

的場信敬・平岡俊一 (編)



# 1、ドイツ・オーストリアにおける子ども・若者参加

- 気候エネルギー分野をはじめ、多くの政策分野で住民参加
- 参加型民主主義を強化し、参加を文化とする
- 政治意思を具体化するための制度や組織が存在するだけでなく、人材育成(とくに若い世代を対象)を実施
  - 自治体の政策形成や地域プロジェクトに関わる仕掛け

| 参加形態        | 内容   |
|-------------|--|
| 選挙を伴うもの     | 例えば、青少年議会(Jugendgemeinderat)では、青少年による選挙で選ばれた青少年が、自治体内の青少年の利益を代表する。                   |
| 選挙を伴わないもの   | 例えば、青少年委員会(Jugendbeirat)では、政治に関わりたいと考える青少年を自治体が招待する(スポーツクラブのメンバー、学生の代表、ユース消防団の代表など)。 |
| オープンな参加     | 例えば、ユースフォーラム(Jugendforum)では、あらゆる青少年が参加でき、自分たちの関心事や要望を政治家や行政関係者と意見交換することができる。         |
| プロジェクト関連の参加 | 自分の興味・関心のあるテーマに青少年が関わる。例えば、お祭りの企画運営、スケートパークの計画、ユースハウスや幼稚園の改築ほか。                      |

# バーデン=ヴュルテンベルク州における住民参加

- 州議会の付属組織として「政治教育センター(LpB)」
  - 1972年設立、130人のスタッフ、予算規模も他州より大きい
- 州政府は、子ども・若者の政治参加を支援
  - 自治体法に子ども・若者の参加を明記(2015年改正第41a条)
  - 子どもは「参加させるべき」、若者は「参加させなければならない」
  - 2011年に緑の党の州首相が誕生し、子ども・若者参加を推進
- ドイツでは、ボイテルスバッハ・コンセンサス(1976年)が、政治教育において重要な原則
  - ①教員が生徒を圧倒し自らの判断の獲得を妨げることの禁止  
(圧倒の禁止の原則)
  - ②論争のあることは論争のあることとして扱う  
(論争性の原則)
  - ③生徒は自分の利害関心に基づき政治参加の方法と手段を追求する能力を持つ(生徒志向の原則)



# ゲルリンゲン市における青少年議会

- バーデン＝ヴュルテンベルク州ルードヴィヒスブルク郡に位置
  - 面積17.01平方キロ、人口約2万人
- 昔から、若者参加を重視
  - 行政と若者が対話するユーストークを定期的実施
  - 若者がいつ来てもいいユースハウスを1982年に開設
- 1994年、市議会でも若者参加の方法を開発することを発議
  - パネルディスカッションで、若者参加形態の種類を学ぶ
  - 他の青少年議会の視察
  - ポジションペーパーを作成し、青少年議会の設置を提案
- 1994年7月、全会派の賛同で、青少年議会の設置が市議会でも可決
  - 1995年11月～12月、初めての選挙
  - 1996年1月、初めての青少年議会開催



# 青少年議会の枠組み

- 青少年議会の概要
  - 任期2年、議員数18人、14歳～19歳が選挙権・被選挙権
  - 代表1名、副代表2名、市長は議長だが決議権なし
  - 予算は年間4,000ユーロ
  - 市役所の青少年・家族・高齢者部青少年課が事務局
  - 担当職員1人が、同伴者としてサポート
- 参加する学生
  - 社会貢献をしたい、既にNPOや教会組織に参加している学生が参加
  - 両親が高学歴な場合が多い
  - ゲルリンゲン市内には、ギムナジウム1、実科学校1
- 青少年議会で決議されたプロジェクトは、市議会に申請
  - 市議会で決議されると、市議会でプロジェクトに予算
  - 市議会や委員会で審議される際、青少年議会は発言権を有する
  - 青少年議会の関心事が、市の政治に流れ込む

| 期間      | 立候補者 | 投票資格者 | 投票率    | プロジェクト   |
|---------|------|-------|--------|--|
| 1995-97 | 48   | 617   | 47.80% | バンドの練習室、グラフィティアート、乗り合いタクシー、スポーツ場のバスケットボールネット、環境アクション、姉妹都市交流、バーベキュー広場 |
| 1997-99 | 38   | 636   | 36.50% | 乗合タクシー、姉妹都市交流、ローカル・アジェンダ21、社会貢献の屋台、グラフィティアート                         |
| 1999-01 | 47   | 595   | 40.00% | ユースハウスのキッチン改装、ストリートボール大会、JGRロゴリニューアル、ハーフパイプ                          |
| 2001-03 | 49   | 601   | 50.70% | 校内の自動販売機リニューアル、読書会、HP作成、エイズ講演会・パネルディスカッション、スポーツウィーク、パーティ             |
| 2003-05 | 54   | 658   | 46.50% | 10周年記念祭、バーベキューパーティ、映画鑑賞会、読書ナイト、アクションウィーク、真夜中のサッカー大会                  |
| 2005-07 | 33   | 666   | 47.70% | EU議会への旅、ユネスコ・ワールドユースフェスティバル、姉妹都市交流、暴力反対の抗議運動、10周年記念イベント              |
| 2007-09 | 63   | 640   | 46.60% | 姉妹都市交流、真夜中のサッカー大会、EFEK基金、プールパーティ、つまずきの石                              |
| 2009-11 | 27   | 652   | 34.35% | 真夜中のサッカー大会、プールパーティ、読書ナイト、ユースミーティング、子どもガン募金ウォーク                       |
| 2011-13 | 43   | 704   | 31.81% | 真夜中のサッカー大会、16歳からの投票に関するパネルディスカッション、演劇イベント、姉妹都市交流、募金アクション             |
| 2013-15 | 33   | 747   | 36.54% | 政治イベント、夏休み前のパーティ、読書ナイト、青少年議会選挙投票年齢引き上げ、パンptrラック                      |
| 2015-17 | 28   | 972   | 35.80% | 読書ナイト、劇場ケータリング、道路標識へのQRコード追加、バレーボールコート、パンptrラックレース                   |
| 2017-19 | 35   | 957   | 33.85% | 地方選挙に関する学校でのイベント、イメージフィルム作成、ユースフォーラム                                 |
| 2019-21 | 29   | 951   | 35.65% | ユースフォーラム、公共空間での若者集会場、記念式典  |
| 2021-23 | 29   | 891   | 29.39% | 公共空間での若者集会場開設、パーティ、姉妹都市交流  |

バーベキュー広場



グラフィティアート



つまずきの石



募金アクション



パンプトラック



# ゲルリンゲンの成果

- 青少年議会を経て、市議会議員になった人が4～5人
  - 市長への立候補、他自治体議員への立候補
  - NPOや老人ホーム経営など、地域に関わる職につく
  - 州全体で、若い議員が増えている傾向
- 青少年議会への参加で、生活と政治の関わりを理解
  - 何かを変えられることを経験
  - 地域へのアイデンティティを活動で得ることは地域にとってもプラス
- 「青少年議会が成功するかどうかは、行政や市議会がうまく機能しているかどうかにかかっている」
  - 市職員が同伴者として支援
  - 青少年議会の決議事項や関心事を迅速に扱う
  - 様々なパートナーがプロジェクトの実施をサポート
  - 州レベルでは、LpBによる継続教育、職員の交流会、資金援助など、参加を支える体制が整備
  - 立候補者の発掘のため、ユースハウスで行政が声がけをすることも

## 2、フォアアールベルク州における住民参加

- 州政府に住民参加の推進を担う組織として、ボランティア・住民参加事務局(FEB)が存在
  - 1999年設立、9人のスタッフ(フルタイム換算6.5人)
- 州政府は、子ども・若者の政治参加を支援
  - 州憲法に参加型民主主義を明記(LGBl. Nr. 14/2013)
  - 自治体を長期的に持続させるために、子ども・若者のアクティブな参加は欠かせない
  - 参加を通じて、自治体や市民社会、政治との結びつきを強化
  - 情報提供やワークショップの実施、オンラインでのアドバイス
  - オンライン参加プラットフォーム(Vorarlberg Mitdenken)を通じた、デジタル住民参加
- ネットワーク化と継続教育が重要
  - さまざまな参加プログラムが発表され、インスピレーションと交流の場として「参加の長い夜」
  - 進行中の子ども・若者参加プロジェクトが発表される「午後の勉強会」

## フォアアールベルク若者参加モデル

多くの魅力的な自治体では、若者を開発に巻き込んでいる。フォアアールベルク若者参加モデルは、こうした貴重な経験や取り組みから生まれた。このモデルは、自治体における若者参加の段階的な確立を概説している。各段階では、試行錯誤を重ねた参加手順が説明されている。計画と成功した実施は、各自治体の個別の状況に適応される。

# JUGEND-FORUM

## JUGEND- INFOR- MATION

若者は、権利、機会、サービスに関する情報を受け取る。

- ・インフォメーションポイント（例：ユースセンター、市民サービス）。
- ・情報提供イベント（クラス代表者会合）
- ・情報資料（オンライン/プリント）

## JUGEND- BEFRA- GUNG

若者は、特定の問題に取り組む。その結果は自治体で取り上げる。

- ・アンケート（オンライン/プリント）
- ・あるテーマに関するグループディスカッション（例：フォーカスグループ）
- ・公開討論会

## JUGEND- RAT

若者は、自治体に助言し、自分たちにとって本当に重要なことを持ち寄る。それがイニシアティブにつながることもある。

- ・無作為に指名された約15名の若者。
- ・若者は主要な関心事を表現する。
- ・対策やイニシアティブを説明する。
- ・自治体で結果を発表し、議論する。
- ・若者たちは、その結果の対策について情報を得る。

## JUGEND- BETEILI- GUNG- TAG

若者は、自治体から招かれ、大人たちのサポートを受けながらプロジェクトを立案し、実施する。

- ・自治体と若者は一緒に若者参加デーを準備する。
- ・すべての若者を招待する。
- ・プロジェクトは、プロジェクトコーチとともに開発され、実施されます。

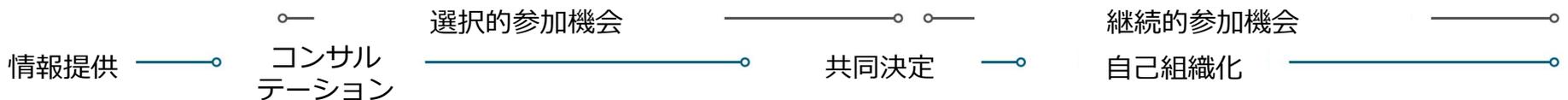
## JUGEND- TEAM

若者は、グループをつくり、自治体と連携してアイデアを実現する。

- ・若者が一緒に活動する。
- ・地域でのネットワークづくり（オープン・ユースワーク、ユース委員会など）
- ・具体的なプロジェクトの実施。

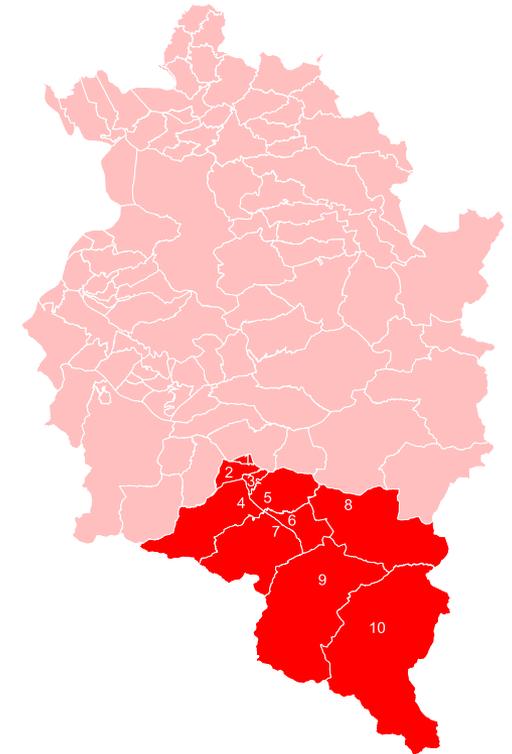
若者は、権利と義務を有する正式な組織を結成し、自治体を共に形作る。

- ・自治体は権利と義務を決定する。
- ・若者は役員を選出する。
- ・すべての若者は参加するよう招待される。
- ・若者は自治体に助言し、プロジェクトを実施する。



# モンタフォンの概要

- フォアアールベルク州の南部に位置
- 10の自治体から構成
  - 1 Stallehr、2 Lorüns、
  - 3 St. Anton im Montafon、4 Vandans、
  - 5 Bartholomäberg、6 Schruns、
  - 7 Tschagguns、8 Silbertal、
  - 9 St. Gallenkirch、10 Gaschurn
- 人口は16,700人
- 州内でも観光(スキー)が盛んな地域
  - 1年の宿泊数は200万泊
- 1832年から地域連合Stand Montafonが存在
  - 他の渓谷では、EU加盟をきっかけに作ったところが多い
  - 博物館・図書館の管理、公共交通の拡張、地域空間発展コンセプトの策定、農村振興政策LEADER事業の実施など、地域マネジメントを担う
  - 近年は、社会福祉の中でも若者や家族に重点



出所 : <https://de.wikipedia.org/wiki/Montafon>

# ユースフォーラムの設立と経過

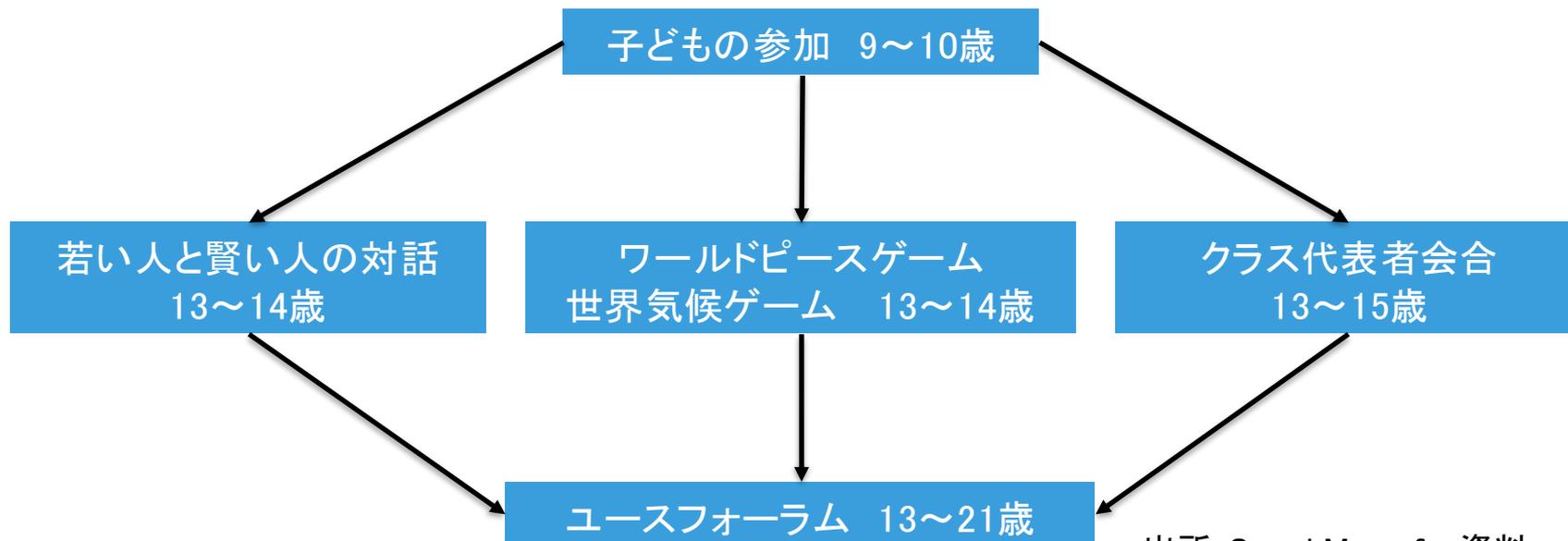
- 2016年、州内で最初にユースフォーラムを設置
  - 2012年、Stand Montafonでユースコーディネーターを雇用
  - 業務は、助成金申請、同伴、実践、プロジェクトづくり、若者の職業教育、情報提供、ネットワークづくりなど
  - 住民参加を行い、自分達が定期的に会える場所を4人の若者が希望
  - ユースコーディネーターが、ドイツMörderfelden-Walldorfの青少年議会の実践を参考に、ユースフォーラムを構想
- 設立後の取り組み
  - ウェブサイトの開設、SNSのアカウント立ち上げ、ヨーロッパ・ユースイベント(EYE)2016への参加、「参加の長い夜」に参加、州のユースPJコンペで表彰、10首長へのインタビューをYouTubeチャンネルで公開
- その後、中心的な役割を果たしていた4人が大人になり、新しい若者も入らず、ユースフォーラムの活動が停滞
  - ユースフォーラム何それ？という雰囲気へ



# 現在のユースフォーラム

- 2018年末に、現ユースコーディネーターが着任
  - ソーシャルワークの修士号
  - 長年、教育関係の仕事に従事
  - 新たに若者が参加する仕組みをFEBと検討・開発
- 年齢に応じた段階的な参加機会を複数用意
  - 最終的にユースフォーラムに流れ込む

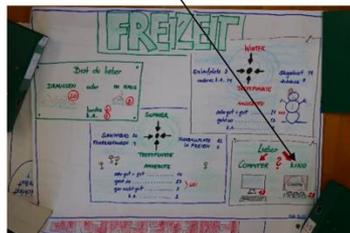
図 モンタフォンにおける段階的な参加





## 若い人と賢い人の対話

- ・アンケート調査
- ・若者と大人の対話



## 子どもの参加

- ・首長とのワークショップ
- ・子ども映画館というアイデア

## クラス代表者会合

- ・1年に1回代表の生徒が集まる
- ・行政とワークショップ



# 世界気候ゲーム

- 世界気候ゲームの内容
  - ミッテルシュューレ3年生(13~14歳)を対象
  - 気候変動に対する意識向上を目指してオーストリアで開発
  - チームで協力しながら、3日間かけて課題解決を模索
  - 気候教育の認定ファシリテーターがサポート
    - フォアアールベルク州エネルギー・エージェンシーでは、世界気候ゲームのマスターになる講座をメンバー全員が受講
  - ゲームの後、実際に気候関連のプロジェクトを実施し、気候保全対策を首長や議員に提示
- 複雑な政治・気候のことを遊びを通じて体験・学習



世界気候ゲーム  
・年1回実施

# モンタフォンにおけるユースフォーラム

- ユースフォーラムの取り組み
  - 定例会で、モンタフンの子ども・若者に重要なテーマを話し合う
  - 関連する政治課題の意思決定プロセスに関与
  - メンバーが自治体の委員会で意見を述べる
  - 自分たちで企画したプロジェクトを実施
- ユースフォーラムの概要
  - 13歳～21歳の若者が参加
  - メンバーの中から、代表者の男女1名ずつを選挙で選出、任期1年
  - 来るものは拒まず、メンバーの出入りは自由
  - 代表者を選ぶ選挙で選ばれないが、13歳未満も参加可能
  - 予算は年間5,000ユーロ（50% Stand Montafon、50%州政府）
  - ユースコーディネーターが、同伴者としてサポート
  - 2週間に1度、定例会を実施
  - オープン・ユースワークの建物内に事務所
  - 代表者を中心としたコアグループがユースフォーラムを牽引

## プロジェクト

- ・ファーマーズマーケット
- ・メンタルヘルスのワークショップ
- ・若者用スペースのリノベーション
- ・若者広場のためのデモ



[www.stand-montafon.at](http://www.stand-montafon.at)

10

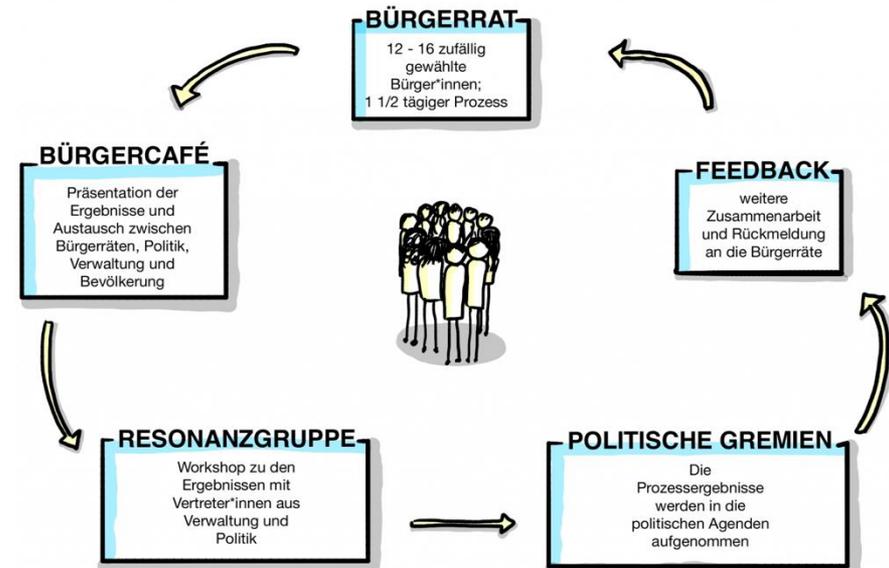
出所: Stand Montafon資料より

# モンタフォンの成果

- 子どもや若者の参加を促す仕組みを構築し、参加文化の醸成を目指す
  - 若い時から参加機会を用意し、住民参加に慣れさせる
  - ユースコーディネーターが、参加を支援
  - 若者と同じ目線で、大人が若者の話を聞くことが重要
- 学校との連携は課題
  - 何人かの熱心な先生とは情報交換
- 地域で尽力した経験があると、アイデンティティが深まる
  - 大学進学で地域外に出る若者が多い
  - 山の上に住んでいて、夕方以降は「死んだズボン」
  - 昔から観光客が地元の人より大事だという雰囲気
- 地域で一緒に協働する文化があることが大事
  - モンタフォンは、もともと権威的な地域で、先生に言われたことに従うことが多い
  - 子ども・若者育成を重視して持続可能な地域づくりへ

# 3、ビュルガーラート (Bürgererrat)

- 特定のテーマに多様な住民が参加し、討論、合意形成、政策提言を行う手法
- フォアアールベルク州では2006年から導入
  - これまで、難民、農業、気候、選挙、介護などのテーマで開催
  - 州政府や自治体でテーマを決めて実施
  - 住民1000人の署名があれば実施可能
- 3つの効果
  - ミクロ: 参加者の行動変容
  - メゾ: グループによる学習効果
  - マクロ: 政治システムへの浸透



# ビュルガーラートのプロセス

- ダイナミックファシリテーションという方法で進行
  - 議論を通じて創造的・建設的な解決策を見つけるプロセスを重視

| プロセス                         | 内容   |
|------------------------------|--|
| 委員の選出                        | 段階的な無作為抽出による委員の選出<br>1段階目:性別・年齢・住所による無作為抽出<br>2段階目:教育レベル・収入・母語による無作為抽出   |
| 市民会議の開催                      | 選ばれた市民10~15人による熟議の実施<br>参加型イベント形式による1.5日の議論を行い、共同提言を作成する   |
| 市民カフェ                        | ワールドカフェの手法を用いてアイデアを発表・公表<br>関心を持った市民や政治団体が参加する(50~100人)  |
| レスポnder・グループによる提案内容の評価・とりまとめ | 提言内容の精査と結果の取りまとめ<br>テーマに関係する機関や専門家が参加して、市民会議の提言内容やアイデアについて実現可能性を精査する<br>市民会議と市民カフェの結果を公式な報告書にまとめ、行政と住民がさらにその内容について深められるようにする |
| 議会での決議と州政府からのフィードバック         | どのような措置を講じたのか、講じるのかといった詳細なレビューを発表しなくてはならない   |

# 気候変動をテーマにしたビュルガーラート

- 2021年、「気候の未来 (Klima-Zukunft)」という市民会議を開催
  - 2019年7月に、オーストリアの州としては初めて気候非常事態宣言
  - 州全体で気候変動対策の取り組みを優先し、市民参加の機運が高まる
  - 2021年2月～4月にかけて1278人分の署名が集められ、気候変動をテーマとした市民会議が開催(気候市民会議)

| 日程           | 内容   |
|--------------|--|
| 2021年7月2日・3日 | 市民会議の開催。ランダムに選ばれた21歳から64歳までの21名が委員として参加。1.5日間かけて2つのグループで並行的に議論を行い、その成果を統合し、6つの中核的なトピックを策定した。 |
| 2021年7月6日    | 市民カフェの開催。市民会議の成果を市民カフェで発表、意見交換。州政府からの最初のフィードバック。   |
| 2021年9月23日   | レスポндター・グループで実現可能性の検討。この市民会議の内容については、追加的に学術的な評価が行われた。  |
| 2021年9月      | 最終文章のとりまとめ   |
| 2021年10月     | 州政府による提言内容の決議と参加者へのフィードバック   |



**DOKUMENTATION**  
Bürgerrat „Klima-Zukunft“  
Juli 2021

← 気候市民会議の報告書

↓ 州政府からのフィードバック

**Rückmeldung der Vorarlberger Landesregierung  
zum Bürgerrat „Klima-Zukunft“ Vorarlberg**

# 気候市民会議からの提言

- 6つのトピックについて、メッセージや提言をまとめる
  - 意識向上・啓発・教育
  - 報酬とインセンティブ
  - 資源マネジメント
  - モビリティ
  - グローバルな枠組み
  - 政治・住民参加の役割
- 州の気候変動対策への具体的な影響
- (1) エネルギー政策の強化
  - 再生可能エネルギーの拡大
- (2) 気候教育と意識啓発
  - 気候変動への教育プログラムの強化
- (3) 持続可能な交通インフラの推進
  - 環境負荷の少ない交通手段の導入強化
- (4) 政策の透明性と住民参加の拡大
  - 住民が政策決定に継続的に参加できる仕組みづくりの整備

# まとめ

- ドイツ、オーストリアの子ども・若者参加の特徴
  - ① 子ども・若者と、行政や大人をつなぐ専門人材が存在
    - 地域に雇用され、ノウハウを蓄積しながら、伴走して参加を支援
  - ② 基礎自治体の上位政府が参加を支援する組織を用意
    - 情報提供や調査、補助、継続教育などを提供
  - ③ 子ども・若者の意見が反映され、地域を変える経験ができる
    - 大人がきちんと話を聞き、約束を守る態度で、スピーディに対応
- 参加に慣れていない子ども・若者のキャパシティビルディング
  - 欧州でも政治的無関心が広がる中、住民参加を重視
  - 良好な住民参加を通じて、政治への信頼回復、地域の民主主義の強化
  - 「公益のために一緒にデザインする場を提供」